

第2学年〇組 算数科学習指導案

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 〇〇小学校 |
| 職・氏名 | 教諭・〇〇 〇〇 |

1 授業について

| | |
|---------------|--|
| 単元名 | 新しい 計算を 考えよう (本時4 / 22時間) |
| 単元の目標 | 乗法の意味について理解し、計算の意味や計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質を見だしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |
| 本時の目標 | 乗法の場면을式やおはじきで表す活動を通して、乗法の意味を確実にする。 |
| 児童の実態 | <p>男子〇名、女子〇名の〇名の学級である。算数の授業には、自閉情緒学級の児童が1名交流学习で来ている。新しい学習に意欲的な児童が多いが、学力差が大きく中位層が少ない。一人で問題に取り組むことができる児童がいる一方で、個別に声掛けが必要な児童が数名いる。</p> <p>日常生活に起こる事柄と結び付けることで、イメージをもって意欲的に学習に取り組めるようにしていく。自分の考えをノートに書いて話すことが難しい実態であるため、本単元では具体物などを操作することで考えたことを表現し、理解を深められるようにしていきたい。</p> |
| 本時の授業づくりの主な視点 | <p>視点1 児童が主体的に学習に取り組むための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半具体物の操作を取り入れ体験的に学習することで意欲をもたせる。 ・段階的に学習を進め、考えを表現できるようにする。 <p>視点2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色分けした掲示物を使って用語を分かりやすくする。 ・何をするのか明確に分かる発問をする。 |

2 本時の指導 (4 / 22時間)

| 段階時間 | 活動内容 ◎主な発問、指示 | 〇子どもの反応例 | 留意点 ◎手立て ※評価 |
|-----------|--|--|--|
| 導入 (5) | <p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけ算になる場面を見付け、言葉の式を思い出す。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> $4 \quad \times \quad 5$ <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%; text-align: center;">1つ分の数</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%; text-align: center;">いくつ分の数</div> </div> </div> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ◎かけ算の場めんを式やおはじきであらわそう。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1つ分の数×いくつ分の数だったね。 ○ 1皿に4個ずつの5つ分で20個 | <ul style="list-style-type: none"> ◎前時からの掲示物を継続して使い、言葉の式の定着を図る。 【視点2】 ・本時では、おはじきや式で表すことができればよいことを伝え、見通しをもたせる。 |

3 かけ算の式をおはじきで表す。

- それぞれ自分のおはじきで表す。
 3×2 2×3
 5×2 2×5

◎ 4つの式になるようにおはじきを並べましょう。

4 自分でかけ算の式を考える。

◎ 2～5までの数字を使って式を考えましょう。

- ①式を考えてボードに書く。
- ②ボードの裏におはじきで表す。

5 ペアで交流する。

◎ 友達にクイズを出しましょう。おはじきを見せて、見た人は式を答えます。

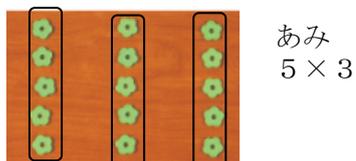
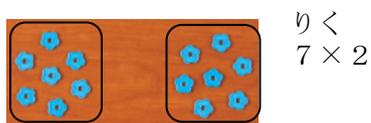
- ペアで問題を出し合う。

6 全体で交流する。

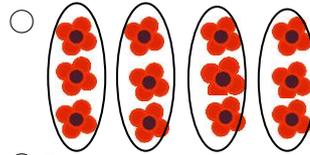
◎ 何人かに発表してもらいます。おはじきが並んでいるのを見て式を答えましょう。

7 適用問題に取り組む。

◎ 教科書9ページの問題に取り組みましょう。



- ◎ 3×2 と 2×3 は両方ともおはじきが6個必要だ。
- ◎ 1つ分の数は3, いくつ分の数は2だ。
- ◎ 3つの2つ分だから 3×2
- ◎ 5つの2つ分だから 5×2



◎ 3×4

- ◎ $\Delta \times \square$ だ。
- ◎ 正しくできたぞ。

- ◎ 発表してみようかな。
- ◎ 説明することができたぞ。
- ◎ Δ つの \square 分だから $\Delta \times \square$

- ◎ さっき作った式に似ているな。
- ◎ しほさんは1つ分の数が4だね。
- ◎ 4つの3つ分だから 4×3 (しほ)

◎ おはじきの操作は、1問ずつ確認しながら、スモールステップで進めていく。

【視点1】

◎ 「1つ分の数」「いくつ分」という用語を使って説明させる。 【視点2】

- 持っているおはじきの個数の中で操作させるために使える数字は2～5に限定する。
- おはじきと式が合致しているか教師が確認する。

※ 具体物のまとまりに着目し、乗法が用いられる場面を式やおはじきで表し、説明している。【思・判・表】(観察)

◎ ペアでの活動を認め、自信をもたせることで全体での発表につなげる。【視点1】

◎ 説明が難しい児童には、掲示物を見せ発表しやすくさせる。 【視点2】

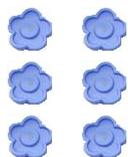
- 「1つ分の数」「いくつ分」をしっかり把握させるようにする。
- 1つ分の数が分かりやすいように鉛筆で囲ませる。

| | | | |
|----------------|---|---|--|
| 終 末 (10) | <p>8 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ◎おはじきを使うと、何かいいことはありましたか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ㊦おはじきをならべると、かけ算の式の1つ分の数といくつ分が分かりやすい。 </div> <p>9 本時の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◎今日の学習で分かったことや感想を教えてください。 </div> <p>10 次回の学習内容を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい。 ○答えも分かりそう。 ○1つ分の数が分かりやすい。 <ul style="list-style-type: none"> ○おはじきを使って式を考えることができた。 ○友達の問題に答えることができた。 ○説明するのが難しかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童からおはじきを使うことの利点を出させ、まとめる。 ・今日の振り返りを発言させる。 |
|----------------|---|---|--|

板書計画

㊦かけ算の場めんを式やおはじきであらわそう。

ア 3×2



イ 2×3



ウ 5×2



エ 2×5



1つ分の数

×

いくつ分の数

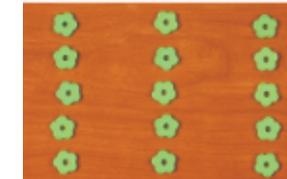
しほ



りく



あみ



㊦おはじきをならべると、かけ算の式の1つ分の数といくつ分が分かりやすい。